

まちづくり協議会だより

発行：令和8年 9月30日（水）

編集：東清川地区まちづくり協議会事務局
（東清地域交流センター内）

住所：木更津市笹子469-1

電話：0438-98-2919

はじめに

『まちづくり協議会』とは、地域によって異なる課題を解決するために、地域のことをよく知っている市民や団体が話し合い、住みやすくするために活動する組織のことで、木更津市には15の『まちづくり協議会』があります。『東清川地区まちづくり協議会』は令和3年3月に設立し、今年で6年目となります。設立当初から「防災に向けた取組」を活動の柱とし防災部会（区長会と地域の災害対策コーディネーター等で組織）を設け避難所運営マニュアルの作成や避難訓練、公民館（当時）と共催でHUGやバッククッキングなどの防災教室を開催するなど、地域の防災力向上に努めてきました。

令和6年度、地域の高齢化が年々進行していることを考慮し、高齢者部会（区長会と地域の民生・児童委員等で組織、社会福祉協議会や包括支援センターと連携）を発足し、「長く、楽しく暮らせる地域にすること」を目指して東清地域交流センターと連携してシニアの居場所づくりに取り組んだり、木更津市企画部地域政策室と協働して、困っている方のために地域内の移動手段確保に向けて話し合ったりしています。

活動の様子が地域の皆様に少しでも伝わるよう、この度「まちづくり協議会だより」をお届けすることといたしました。ご一読ください。

会長挨拶

今年度、まちづくり協議会会長を務めております中尾町内会長の鳥海初男と申します。東清川地区が皆さんにとって住みやすい地区になるよう精一杯がんばりたいと考えております。

先日、『木更津市地域連携推進協議会』に参加し、各地区のまち協会長と、それぞれの地区の課題や取組内容について意見交換をしてきました。その席では「担い手不足」と「高齢者の移動手段の確保」が共通した課題になっていると感じました。

後継者不足を解消するためには、まち協の存在、活動を皆さんに広く知ってもらうことが必要と考え、この便りを発行することとしました。また移動手段に関しては、富来田地区の「ふくちゃんバス」の取組に感銘を受け、この地区で進めているデマンドタクシーを活用した交通システム作りを市と協働しながら少しでも早く、皆さんにとって有効なものとして実現していけるよう努力していこうと思います。しかし、何をやるにしても地域の皆さんの理解と協力が不可欠です。皆の力でまちづくり協議会の活動を盛り上げていけるよう、よろしくお願いします。

活動の様子

総会



シニアカフェ・ シニアカフェinアピタ



防災部会 & 講演会



高齢者部会

高齢者部会の部会長を務めております、清川地区民生・児童委員協議会会長の榎東と申します。地域のシニアの皆さんが明るく、楽しく、そして健康な生活が送れることを願って頑張っていきたいと思っております。

高齢者部会では令和6年の立ち上げに際し、地域の高齢者の方々が何に困っており、支援を求めているかアンケートを取らせていただきました。その結果、①屋外作業の支援 ②清掃やゴミ出し等の支援 ③買い物等の移動支援 が上位に上げられていました。

この中の移動支援について、木更津市企画部地域政策室の協力を得て、最初に取り組んでいくこととしました。東清川地区内での高齢者向けデマンド型タクシー（事前にルートや時間を決めておき、予約制とすることで安価に利用できる乗り合いのタクシー）の運行を目指しています。

9月13日に第1回の総会を開きました。デマンド型タクシー運行に関しては、ここまでの部会での話し合いや、地域政策室によるタクシー会社との折衝により、月・水・金の週3日、1日につき7便、行先をアピタ木更津店、東邦病院、ほたる野地区の病院、東清地域交流センターに絞って運行する。利用したい人は前日までにタクシー会社に連絡し予約を取り、自宅から目的地まで固定料金で利用できるものとする、という方向性が定まってきました。市や県・国から補助をいただき、タクシー会社の理解・協力があってこそ可能になる計画です。地域の住人で運営の主体となっていただけの方の人選や赤字の場合の資金面など、検討すべきことはまだ残っていますが、将来的に高齢化がますます進んでいく地区であることを考え、少しでも早く実現したいと思っています。まずは地域の多くの皆さんに関心をもっていただくことが大切だと考えております。

高齢者の居場所づくりのために、充実したシニアカフェの開催とボッチャの励行も高齢者部会の活動の柱としました。シニアカフェについては毎月第3水曜日の午前10時からアピタ木更津店のフードコート、第4火曜日の午後1時30分から東清地域交流センターで開催しています。お茶をしながらのおしゃべりはもちろんですが、ブローチを作ったり、講話を聴いたり、脳活をしたりと楽しく、暮らしに役立つ内容を企画しています。また毎週月曜日の朝8時30分から東清地域交流センターでボッチャを始めました。地域の65歳以上の方なら、申込み不要で自由に参加できます。多くの皆さんに参加していただきたいと思っています。

誰にとっても住みやすい東清川地区になることを目指して、活動をしていきますので、「今まで何も参加したことがない」という皆さんも是非顔を出してみてください。

防災部会

防災部会長を務めさせていただいている伊豆島中区 区長の地曳と申します。近年、大規模災害が頻発し、先日は千葉県でも大雨による被害が発生し、改めて防災に対する意識の向上と対応力の強化が求められる状況になってきたと考えています。

8月22日（土）に第1回の防災部会総会を開きました。まず、地域に4か所ある避難所（東清地域交流センター、東清小、南清小、清川中）の担当者を決めました。11月29日（日）に市一斉避難訓練とともに行う東清川地区の避難訓練では、このメンバーを中心に避難所を開設します。地域の皆さんには避難者として参加していただくことをお願いいたします。希望がある方は、区長（自治会長、町内会長）までお声かけください。その後、清見台南5丁目町内会災害協力隊の高橋氏を講師に迎え「防災・減災のための地域コミュニティ作り（生活防災）」と題してお話いただきました。東清川地区の地震ハザードカルテを基に、今後30年のうちに震度5以上の揺れに見舞われる確率を地区ごとに説明していただいたり、高齢化が進んでいる地区だからこそ考えねばならない自助、共助についてお話いただきました。具体的な内容ですが、

○個人で取り組むべきこと→想像力を生かして家の中や近所を見渡す

①タンスが倒れてたり、照明が落ちたりするかも→寝る場所や器具の工夫をしてみる

②散歩や歩いて買い物に行く→危険個所の把握や緊急時に利用できる資源を知る など

○地域で取り組むこと→ご近所を大切にすることからスタート

①挨拶をする→知り合う第一歩。知らない人と助け合うのは難しい

②情報の共有→得意なことをそれぞれが出し合うことで大きな力になる など。

さらに高橋氏の町内会で取り組んでいる防災マップ作り、安全確認のためのイエローフラッグ活用、災害時に使用できる井戸を掘ったことなどをお話いただきました。そして、よく言われる「自助、共助、公助」に合わせて「近助」が大きな助けになるという話題で締めくくられました。参加していた防災部会員は自分の地区と照らし合わせながら話を聞き、意識を高めることができたと思います。

一人一人が「近助」を大切にすることで「災害に強い東清川地区」を作っていきましょう。